

カザフスタン概要

(一社) ROTOBO
2026年8月現在

1. 基本情報

- (1) 地勢：旧ソ連中央アジアの北部、ユーラシア大陸の真ん中に位置する。国土の大半が草原。カスピ海周辺に石油・天然ガス、また全国土にウラン、鉄鉱石、銅など豊富な鉱物資源が埋蔵する。
- (2) 面積：272万4,900km²（日本の7.2倍）
- (3) 人口：2,059.1万人（2026年7月初推計）
- (4) 首都：アスタナ市（旧ヌルスルタン）
- (5) 主要都市：アルマトィ（237.4万人）、アスタナ（168.3万人）、シムケント（131.1万人）、アクトベ（60.3万人）、カラガンダ（53.6万人）など。（2026年7月初推計）
- (6) 民族：カザフ人（71.5%）、ロシア人（14.4%）、ウズベク人（3.4%）、ウクライナ人（1.8%）など（2026年初推計）。カザフ人はもともとアジア系の遊牧民族。
- (7) 言語：国家言語はカザフ語（テュルク語系）。ただし、ロシア語も憲法上の公式言語として広範に使用される。
- (8) 宗教：カザフ人、ウズベク人はイスラム教スンニ派（ただし、戒律は中東・湾岸に比べると厳しくはない）、ロシア人はキリスト教のロシア正教。



（出所）外務省ウェブサイトより

2. 政治情勢

(1) 独立

1991年12月 ソ連邦解体とともに独立。

（それまではソ連邦を構成するカザフ・ソヴィエト社会主義共和国）

(2) 大統領

K.トカエフ（TOKAYEV, Kasym-Zhomart Kemelevich）。1953年5月17日生まれ。前政権下で外相、副首相、首相等を歴任した重鎮で、前大統領に極めて忠実な人物として知られていた。2019年3月のナザルバエフ大統領辞任表明の際、上院議長であったため憲法の規定により大統領に就任、同年6月の選挙によって大統領に選出された（得票率：70.76%）。当初は前大統領による事実上の院政状態にあったが、2022年初の国内騒乱を受けて同大統領が全ての要職を辞し引退、名実ともに権限を掌握した。2022年11月の前倒し選挙によって再選（得票率：81.31%）、任期は7年で2029年まで。

（参考）**N.ナザルバエフ**（NAZARBAYEV, Nursultan Abishevich）。1940年生まれ。1991年12月、国民の直接投票により初代大統領に選出。以降、約30年にわたりその座にあって権勢を振るい、「エルバシ(国民の指導者/国父)」と称された。2019年3月に突然辞任を表明、腹心のトカエフ上院

議長にその座を譲ったが、退任後も安全保障会議終身議長など、初代大統領として多くの権限と終身特権を行使、事実上の院政体制を敷いた。しかし2022年1月に国内で大規模な騒乱が勃発、実権を握り続ける同氏への不満が明らかとなったことから引退を表明、その親族らともども表舞台を退いた。

3. 経済状況

2000年代より石油輸出をばねに急成長を遂げ、旧ソ連圏（バルト3国を除く）ではロシアに次ぐ経済水準を誇る。ただし国際油価と為替変動の影響を強く受けるため、産業多角化による石油依存からの脱却が課題。

（1）経済水準

（イ）GDP（2025年）：3,262.4億ドル*。

（ロ）国民1人当たりGDP（2025年）：14,692.1ドル*。*世銀データ

（ハ）1人あたり名目平均月額給与（2026年第1四半期）：46万1,486テンゲ（927.2ドル）¹⁾。

（2）主要産業・輸出品

（イ）主要産業：石油・金属、石炭等の地下資源採掘、鉄・非鉄金属産業、農業（穀物）。

（ロ）主要輸出品：原油、鉄・非鉄金属、穀物。

（3）経済指標

表1 カザフスタンの主要経済指標

（前年同期比実質増減率、%）

	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026 上半期
国内総生産（GDP）	▲2.5	4.3	3.2	5.1	5.0	6.5	4.1
鉱工業生産	▲0.5	3.6	1.2	4.4	3.2	7.7	3.5
農林水産業生産	5.7	▲2.3	9.1	▲8.4	13.7	6.0	4.4
固定資本投資	▲3.9	3.7	9.2	11.2	7.5	16.7	9.6
商品小売販売高	▲3.2	7.8	5.8	5.2	11.0	7.5	3.8
インフレ率（消費者物価指数）	6.8	8.0	15.0	14.5	8.7	12.3	11.0

4. 貿易・投資

（1）貿易

（イ）貿易額

輸出（2024年）：816億7,410万ドル / （2025年）：790億4,120万ドル

輸入（2024年）：603億9,800万ドル / （2025年）：648億4,700万ドル

（ロ）主要貿易国 *（ ）内は総額に占めるシェア%

	輸出			輸入		
	2023年	2024年	2025年	2023年	2024年	2025年
1位	イタリア（18.7）	イタリア（22.9）	イタリア（19.8）	ロシア（27.9）	ロシア（30.8）	ロシア（29.7）
2位	中国（18.5）	中国（18.2）	中国（19.2）	中国（25.5）	中国（25.3）	中国（29.2）
3位	ロシア（12.9）	ロシア（11.7）	ロシア（10.3）	ドイツ（5.0）	ドイツ（4.7）	ドイツ（4.8）

【参考：カザフスタンの対ロ・対中貿易総額の推移および輸出入増減率】

	総額（10億ドル）					対前年比増減率：輸出/輸入（％）				
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
中国	18.0	24.2	30.1	30.2	34.1	3.7/29.0	33.6/35.4	12.3/38.1	1.5/▲0.8	2.1/24.1
ロシア	24.6	27.0	27.1	28.1	27.4	40.1/27.9	29.5/1.6	12.3/▲5.8	▲6.4/10.3	▲14.8/3.5

※ 貿易総額で、2023年に独立来初めて中国がロシアを抜いて1位に。特に輸入の伸びが目立つ。背景の一つとして、ウクライナ戦争勃発後に増加した対ロシア中継貿易の影響も考えられる。

（２）日本との関係

（イ）2023年度までの日本の対カザフスタン累計援助額は有償、無償、技術協力あわせ約1,161.8億円（*外務省「政府開発援助（ODA）国別データ集2024」より）。2000年以降のカザフスタンの急速な経済成長を受け、有償の大型案件は既になくなっており、他の中央アジア諸国とは異なりドナーとしての日本の存在感は小さい。

カザフスタンの貿易に占める日本の比率は過去5年間、輸出入ともに総額の1～3％の間を推移、大きな変化はない。二国間の貿易は同国の独立以来、ほぼ一貫して日本の入超であったが、自動車及び建機輸出の増加により、2023年に10年ぶりの出超に転じ、以降、2025年までその傾向が続いている。輸入については、カスピ海沖の石油開発に日本企業が参加していることから時に原油が品目に現れることがあるものの、基本的にその全量をフェロアロイ（合金鋼）あるいはアルミニウム等の非鉄金属が占める。ただし、2024年より石炭（瀝青炭）の輸入が急増しており、今後が注目される。

（ロ）日本との貿易 *日本財務省貿易統計より独自にドル換算。

◆日本の輸出（2025年）：8億9,428万ドル。自動車（67.0％）、ゴムタイヤ・チューブ（5.4％）、鋤山・建設用機械（3.6％）、原動機（3.0％）。

◆日本の輸入（2025年）：7億4,338万ドル。合金鋼（68.4％）、アルミニウム（16.7％）、瀝青炭（8.9％）。

（ハ）二国間条約

2004年8月日・カザフスタン技術協力協定署名（2005年6月発効）。

2008年12月 日・カザフスタン租税条約署名（2009年12月発効）。

2010年3月日・カザフスタン原子力協定署名（2011年5月発効）。

2014年10月 日・カザフスタン投資協定署名（2015年10月発効）。

※上記以外に、条約ではないが2023年10月、「二国間クレジット制度（JCM）の構築に係る日・カザフスタン間の協力覚書」が署名されている。

（ニ）在留邦人数（2025年10月現在）：152人。 *外務省ウェブサイトより

（ホ）在日当該国人数（2025年6月現在）：928人。 *同上、原出所法務省

※数値の出所は断りのない限り、カザフスタン共和国戦略計画・改革庁統計局（ビューロー）。

（注）１）ドル建ては、カザフスタン中央銀行の第1四半期平均公式レート\$1＝497.73テンゲを用いて換算。